

(公財)とやま国際センター広報誌

TIC NEWS

2024
1
Vol.150

特集：国際交流フェスティバル
& 多文化共生フォーラム

- ・講座、イベント情報
- ・JICA富山デスクからのお知らせ
- ・世界のあれこれレポート
- ・作ってみよう!世界のレシピ



Live Together In Toyama

農業を通して世界平和を実現～ネパールと富山の架け橋に～

射水市円池(大門)の農業法人「葉っぱーFarm」の2代目社長として小松菜栽培、加工品の製造販売を行っているダルマさん。2018年からは祖国ネパールにも現地法人を立ち上げ、約200人の従業員のもとでエゴマやソバ、コーヒーなどを栽培しています。また、富山から海外への農産品輸出も展開。富山に来た経緯やネパールと日本の今後についてお話を伺いました。



Dharma Lama ダルマ・ラマ

ネパール シンドゥパルチョーク出身。
父は仏教寺院の僧侶。幼いころから仏教絵画を
学び、国立トリブバン大学 (IA) 卒業後、仏画絵師
として独立。富山出身の女性との結婚を機に
2005年来日。

——富山に来られたきっかけはなんだったのですか？

ネパールで仏画絵師をしていた頃に、そのアトリエを富山県出身の女性が訪れたことがきっかけでした。出会ってから5年目に結婚し、子どもも授かりました。初めての子どもは医療に不安のない日本で産んで、5歳になるまでは日本で育てようと夫婦で決め、妻の実家がある富山に来ました。

日本語は片言しか話せませんでしたが、ハローワークで仕事を探し、木材加工会社で働き始めました。仕事にも慣れ、リーダーを任せてもらえるまでになりましたが、2009年にリーマンショックで会社が倒産してしまい、、、そんなときにある日本人の仏画絵師と出会いました。その方の勧めもあって、忘れていた情熱を思い出し、仏画絵師の仕事を再開することになりました。その後、仏画教室のアトリエスペースを探し始めたときに会ったのが当時「葉っぱーFarm」を経営していた荒木さんです。

——どういう経緯で荒木前社長から経営を受け継ぐことになったのですか？

アトリエスペースとして荒木さんの家の納屋を借りるだけのつもりだったのですが、子どもに安全な野菜を食べさせたいという思いから、自宅の庭で無農薬野菜の栽培を始めていたころでした。そこで「たまたま農業のことを教えてもらえませんか？」とお願いしたら、即OKしていただいて。そこから本格的に教わり始めたのですが、私のどこを気に入ったのか、ある日、「継がないか」と尋ねられました。素人の自分には無理だと断りましたが、農業を通して地域の方々と交流する楽しさや、農業の大きな可能性に気がついていました。数か月後、二度目に誘いを受けたときには「やるしかない」と腹をくくりましたね。

——今ではネパールに現地法人を立ち上げたり、海外への輸出事業も展開するなど大忙しのダルマさんですが、今後の展望はありますか？

私がここまで農業に打ち込むこととなったのは、ある時、農業には世界平和を実現する力があるのではないかと気が付いたからです。世界中のどこでも安定的に食料を自給できる環境を整えることができれば、人と人、国と国の争いも

少なくなるはず。農業には大きな可能性があるのです。食料自給率や人材不足など、社会が抱える様々な課題をビジネスに置き換えて解決する。そのロールモデルをここ富山で作る、日本から世界へ広げていきたい。それが私の人生の目標です。

——やはり第一次産業の人材不足の問題は深刻ですか？

地域で農業をしていると、農協や他の農家さんに関わる機会が多く、どこでも話題は人手不足、担い手不足です。若い人も少ないです。私自身も他人事ではありません。自分の会社も人材不足に直面しています。実は、ネパール人はネパール語や英語、それ以外の言語を話せる人が多く、なにより海外に行くことに対してとても積極的です。うまくマッチできれば、県内の人材不足の解決の助けにもなるのではないかと考えています。とはいえ、ネパール現地ではいまだに大部分の農作業は手作業で行っており、農業のための人材として受け入れるには不安があります。そこで、私はネパールの現地法人に日本の農機の輸出を行う事業を始めました。今後、日本の農機を使いこなせる人材を現地で養成して、日本の人手不足に悩む農家に助っ人として送り出すことができれば、大きな戦力になるのではないかと考えています。私が責任をもって人材を受け入れ、自ら日本の文化やマナーなどを指導するつもりです。そして、いつかうちの研修を終えた卒業生がネパールでの事業を継承してくれることを期待しています。日本、ネパール両国の農業の発展の架け橋になればと願っています。

——富山に暮らすネパール人の皆さんはどんなことで困っているのでしょうか？

現在、「富山ネパール文化交流協会」の会長として県内に住むネパール人、主に留学生の生活のサポートやイベントの企画などを行っています。学生の困りごとでよく聞くのは食事についての問題です。ある女子学生は富山に来て何かの病気にかかってしまい、病院の食事が合わず、処方された薬ももどしてしまい、一時とても重篤な状態になったことがありました。それを聞いて協会の会員が代わる代わる毎日ネパールの食事を彼女に届けにいったこともありました。

——どうなれば、多文化共生が今後進んでいくと思いますか？

一つ言えることは、10年前の日本と今の日本では多文化や外国人に対する考えや見る目が大きく変わっているということです。昔の日本では外国人は珍しい存在で、私も正直街を歩く時に様々な視線を感じ、ビクビクしていた時もありました。しかし、今はもうそのような時代ではありません。今では街を歩けば、いろんな人に声をかけていただきます。わたしの会社には外国人もいれば、障がいを持った人など色んな人が一緒に働いています。これからもっともっと多文化共生、グローバルな社会は発展していくでしょう。ただついていくのか、自分がひっぱっていくのか。お互いの違いを認め合い、違いこそが面白いんだと、一人一人の意識が高まれば自然と多文化共生は広がっていくでしょう。

——最後に、富山県に向けて何かメッセージがあれば、お願いします。

富山に暮らしてはや18年が経ちました。農業に関わるようになってからは8年目に入ります。会社法人にしてからはまだ3年程度です。経営者としては保育園児みたいなものです。富山の人とはとてもやさしいです。困ったことがあればいつも助けてくれます。一度知り合いになれば末長くお付き合いさせてもらえる。こんなありがたい県は他にはなかなかないと思います。私はこの中で生きられる・・・幸せなことです。ネパールは、すぐ後ろはヒマラヤ山脈です。毎日山の景色を見ます。富山も立山連峰の山々を毎日見られます。エベレストの山のふもとの文化、立山も山のふもとの文化があります。それを融合して新たな文化にしたい。それも私の生きがいです。このつながりも天が与えてくれたご縁と思い感謝しています。



TIC日本語教室が開講しました！

10月22日(日)、日本語教室が開講しました。入門、初級の2クラスに10か国から26名が参加し、和やかな雰囲気の中で日本語を学習しています。新しく学んだ文型で、ペアになり、積極的に会話練習する皆さん。質問がよく出る活発な教室です。

P8にて
レシピ紹介中！

国際交流ひろば(中国料理)

富山県国際交流員が各々の出身国の文化を楽しく紹介する「国際交流ひろば」。10月21日(土)に開催された第3回目的「中国料理」では中国・遼寧省出身の鄒(スウ)国際交流員を講師に迎え、遼寧省の食文化についての紹介の後、本場の紅焼翅膀(手羽先の甘辛煮込み)と西红柿鶏蚕湯(トマトと卵のスープ)を作りました。試食の後、とやま研修員の張さんから雲南省の紹介をしてもらいました。参加者からは料理だけではなく文化も知れてよかった、などの声がありました。



Zoomオンラインセミナー“多文化主義とカナダ社会”

今年度の多文化理解連続講座の第3回目は11月26日(日)、“多文化主義とカナダ社会：～共存共栄に向けて～”と題して、カナダからオンラインでお届けしました。講師には、カナダで翻訳家として活動されているエンジェラ・ハウエルさん(1992年富山県国際交流員)をお迎えし、同じく移民によって構成される多民族社会であるアメリカとの違いなどについてご紹介いただきました。

国際交流人材バンク通訳者セミナー

国際交流人材バンクの登録者等を対象として毎年開催している通訳者セミナーは今年度で22回目を迎え、「AIが強い味方になる!?これからの翻訳業・通訳業」と題し、山形にUターンし、フリー翻訳者として活躍されている丸山清志さんを講師としてお迎えしました。AI化が進む社会におけるこれからの翻訳者・通訳者の役割について講演いただきました。参加者からは「AIができない仕事もあるということで安心しました。」「翻訳の完全AI化は無理と聞いていましたが、実際に生の声で聞けて、未来が見えてきました。」などの感想が寄せられました。

令和5年度富山県国際交流部門功労・第28回とやま国際草の根交流賞表彰

去る11月8日(水)、富山県県民会館において、富山県との共催により、上記の表彰式を行いました。受賞者は以下のみなさまです。

一とやま国際草の根交流賞一

(個人の部)

大角 利雄さん

ネパールへの青年海外協力隊隊員の経験を有し、長く協力隊富山県OB会会長を務められたほか、富山ネパール文化交流協会の立ち上げに中心人物の一人として携わり、役員として文化交流活動や留学生の生活支援等に尽力されるとともに、自ら国際協力団体を設立し、「カンボジアヘランドセルを贈る事業」にも尽力されました。

水野 順子さん

とやま子ども芸術活動支援協議会の中心的メンバーとして、海外を含む舞台芸術公演において富山及び海外の子どもたちを長年に亘ってサポートしておられるほか、昨年の「とやま世界子ども舞台芸術祭」では渉外部長を務めるなど、すべてボランティアとして献身的に尽力されました。

(団体の部)

富山県台湾総会 (会長 吉田 雅子さん)

「らくらく台湾華語教室」等の主催事業を開催するほか、台湾との友好交流を進めている射水市や氷見市などにおけるイベントにも積極的に参加・協力し、富山県と台湾の友好親善促進に貢献していらっしゃいます。

堀田 順子さん

富山市民国際交流協会の役員として、「国際交流フェスティバル」や「新春国際交流のつどい」等の企画運営に携わるなど、指導的役割を果たされるとともに、文化交流委員会の活動では、在住外国人向けの華道体験や米国ダーラム市とのオンライン交流での生け花の実演など、日本伝統文化の紹介、普及に尽力していらっしゃいます。

横田 ほの華さん

幼少時から長年に亘り洋舞の研鑽を積み、各種コンクールで優秀な成績を収められるとともに、国際交流事業に積極的に参加し、海外からの出演者の受け入れやケアにも尽力しておられるほか、昨年の「とやま世界子ども舞台芸術祭」では主役級としての出演に加え企画制作面からも貢献されました。

一富山県国際交流部門功労表彰一

木口 実さん

富山日伯交流友の会の会長として、高岡市及び近郊在住ブラジル人の生活支援及び日伯両国の相互理解を目的とした地域での交流事業に尽力していらっしゃいます。また、高岡市多文化共生プラン策定委員会の副委員長を務め、高岡市に適切な助言を行い、プランの推進に尽力されています。さらに、高岡市国際交流協会相談員として勤務し、在住外国人からの生活相談にも応じておられます。



国際交流フェスティバル 2023

4年ぶりの
本格開催

日時：令和5年11月12日(日)10:00~16:00
場所：オーバード・ホール 中ホール

コロナ禍で従来のような規模での開催を見合わせていた国際交流フェスティバル。ついに今年度、4年ぶりの本格開催が叶いました。会場は今年7月にオープンしたばかりのオーバード・ホール 中ホール。当日は1,222人の人出で大いににぎわいました。

当日の様子を密着取材!

START!

①オープニングセレモニー

パラグアイのポルダンス
ターニャ・ペラルタさん(表紙写真)



②各国紹介ブース



各ブースを巡っている人々の国の人とおしゃべり♪各国の「ありがとう」の言葉を集めるスタンプラリー開始!



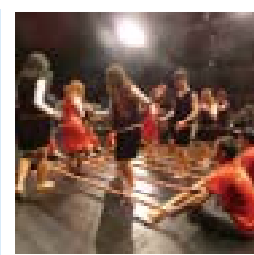
③外国人カラオケ大会

9か国9名の参加者が熱唱!

優勝は「感謝状〜母へのメッセージ〜(島津亜紀)」を歌った中国出身の方に決まりました。どの出場者も圧巻の歌唱力で会場を沸かせました。



④ネパールの歌と踊り



⑤ベトナムバンブーダンス

富山県ベトナム人協会によるベトナムバンブーダンス。迫力満点のパフォーマンスに会場は大盛り上がり!

⑥着物ファッションショー



音楽鑑賞室ではJICA北陸による「世界の音楽リズムに乗って楽しもう!」が行われました。

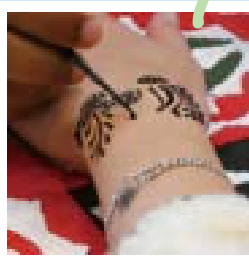
とやま国際センター提供の民族衣装体験。11の国と地域、20種類の民族衣装を用意しました。

⑦マレーシアの踊り



マレーシア
留学生のみなさん

⑧ヘナ体験



ステージの合間にインドのヘナ体験。他にも中国結芸や消しゴムハンコ、ブラジルの楽器作りなど様々な体験を行いました。

⑨民族衣装体験



⑩トーゴの音楽&アンデス民謡



富山・金沢を中心に活動するパーカッショングループ「AVOUE」によるトーゴの音楽&チリ、ペルー、日本のミュージシャンが集った多国籍バンド「MANA」によるアンデス民謡の演奏が行われました。



GOAL!

各国ブースを回って、それぞれの国の「ありがとう」を集めた来場者には認定証(左)と景品をプレゼント。大人も子どももたくさんの方にご参加いただきました。4年ぶりの本格開催となった国際交流フェスティバルinTOYAMA。21か国の各国紹介に加え、20の参加団体により大盛況となりました。



令和5年度多文化共生フォーラム “外国人が考える多文化共生”

日時：令和5年12月2日(土) 14:00～16:00
場所：インテックビル 3階スカイホール

ゲスト：京都精華大学前学長 ウスビ・サコさん

1966年マリ共和国生まれ。国費留学生として北京語言大学、南京東南大学で学ぶ。91年来日、99年京都大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程修了。博士(工学)。専門は空間人類学。



第1部：パネルディスカッション

湯川人材サービス(株)の湯川ルシレーネさん、合同会社dandan代表社員のグエン・タン・ダンさん、Welfare Social Society Toyama Japan代表のナワブ・アリ・ベラムさんをパネリストにお招きし、「外国人が考える多文化共生」についてお話をいただきました。

湯川さんには運営しておられるジーコ10・サッカースクール富山についてご紹介いただきました。サッカー教室の中の様子について、「サッカーが上手いとか下手とか、また、日本人とか外国人だとか関係なく色々な年代、国籍の子ども達が一緒にプレーしています。国籍に関係なく交流できるのがスポーツの良いところですね。実際、教室ではバモス!(ポルトガル語で行け!の意味)の掛け声が日本人、ブラジル人関係なく飛び交っています。大人の考えをいきなり変えることは難しいけれど、こどもたちの素直な考えは親にも良い影響を与えます。」とお話いただきました。

ダンさんからは、県内に暮らすベトナム人の多くは生活の範囲が職場と自宅に限られ、日本の生活習慣を知る機会が少ないという指摘の後、「なかなか日本人とかかわる機会がないので、お互いの当たり前が分からないまま、ベトナム人はベトナムの当たり前のまま生活をしてしまう。日本人の知り合いができれば、日本の当たり前が分かる。逆に日本人にもベトナムの文化や考えなどを知ってもらえる機会になる。」とお話いただきました。

アリさんからは子ども達の教育や日本語教育、将来の進路についての悩みや、イスラム教は土葬の文化があるものの日本では一部の地域にしか認められていないことなどについてお話をいただきました。

第2部：対談“多文化共生社会がつくる社会”

京都精華大学の前学長で空間人類学が専門のウスビ・サコさんとの対談を行いました。

Q. 専門である空間人類学というのはどういった研究なのですか？

A. ちょっと誤解がないように言っておくと、空間人類学というのはどこかで定められた専門学ではないです。じゃあ何かと言われると、「空間の使い方を人類学という視点から見る」というものです。そもそも私の専攻は工学部の中の建築でして、この建築学というのは一般的には近代建築になります。近代建築は、機能に従って合理的に形が造られます。例えばダイニングはごはん

を食べるところで、リビングはくつろぐところ、寝室は寝るところといった具合です。私たちが西洋から学んだ建築学というものはこのように非常に合理的機能的であると同時に限定的でもあるんですね。それに対し伝統的な建築はどうでしょう？和室を例に見てみると畳の上にちゃぶ台を出せばダイニング、布団をすれば寝室といった具合に用途を限定しません。私の祖国マリにも伝統的な家屋の様式があります。近代建築を専攻していた私でしたが、空間の使い方という視点で今一度マリの建築と生活の関わりを研究したいと思い、それがきっかけで空間人類学の研究を始めました。

Q. マリの伝統的な建築はどのようなものなのですか？

A. マリの建築で面白いところは一日のたくさんの時間を中庭で過ごすことです。血洗いをする人、調理する人、ただおしゃべりをする人、色々います。この伝統建築の一番良いところは、朝みんなが顔を合わせることです。どここのおばあちゃんが来てない、じゃあ様子を見に行ってみよう、みたいに中庭から交流が生まれます。もちろん時々お互いに迷惑をかけることもありますよ。しかし、50人、多い時は70人が一緒に住んでいたとしても問題なく機能する。近代建築ではまず不可能ですね。

Q. 日本では小さい頃から人様に迷惑をかけてはいけない、と教えられますが、これについてはどうでしょう？

A. 日本では迷惑をかけること自体がストレスになっている。一昔前だとお隣にお醤油貸して～と言っていたように、多少の迷惑はかけてもいい雰囲気があった。迷惑をかけるというのはつまり自分もかけられてもいいという意味でもあるんですね。原因は近代になって個人を守りすぎているところにあります。近代化した家や街は相手の存在を感じさせてくれません。家の防音機能は高まったけれど、一つ壁の向こうにいる人を感じさせなくなった。だから子どもが騒ぐとクレームが来る。子どもは本来は地域で育てるものであるのに、個を重要視しすぎた結果、むしろ生きづらくなってしまった。そう、迷惑がない社会って実は生きづらいんです。学校の中でもそうです。日本の若い人はみんな迷惑をかけたらダメといって怒られてきた。学校でいうところの迷惑というのは、フ

レームから外れ、みんなと同じようにできないことを指します。テンプレートにそぐわない子どもは排除される。でも実は枠の外にいる子の方が意識は高いかもしれない。不登校の子の方が意識高いかもしれない。友達と合わせられないことが悪いこととされてしまう。一種の大衆教育のようになって個々を見ていないのが日本の教育の問題点です。そのくせ大学生くらいになると急に個性が大事ななんて言い始めるんですよ。今までさんざん個性殺しておいて「そら無理やろ」って話です(笑)

Q. 多文化共生のためにはどんなことが大切ですか？会場みなさんにメッセージをお願いします

A. 違いが悪いと扱われることがまず間違いです。違いをもっとポジティブに考えられるような社会を作っていかなければいけない。違いはマイナスじゃない、プラスなんだと誇りに思ってもらいたい。ダブルの子どもたちも、自分は他の子と違うからといって合わせようと思わなくていいんです。その違いそのものがあなたにとってもまわりにとってもプラスになる。いつか富山にとって日本にとってプラスになるとポジティブに考えてほしい。今日ここにきている方みなさんに多文化共生のアンバサダーになっていただいて、そして一人一人が行動を起こせば多文化共生の輪は広がっていきます。



富山で活躍するJICA OB隊員のご紹介

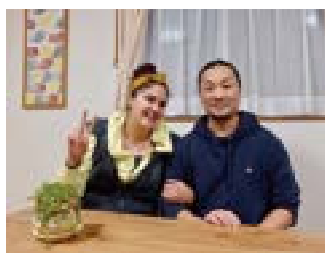
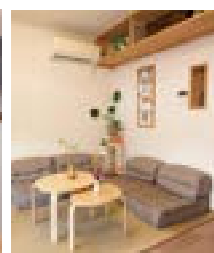
親子そろってJICA海外協力隊経験がある、内山弘幸さん(父)と和也さん(息子)をご紹介します！

内山弘幸さんは、去年10月までの2年間、ウガンダの職業訓練校で自動車整備の実技指導にあたりました。献身的に取り組んだ結果、100人以上いた生徒の全員が整備士ライセンスを取得。英語を話せない生徒も多く、現地語での会話に苦労したといいます。しかし、これに驚くことなかれ。なんと、ウガンダは2度目の派遣。1度目は、1988-1990年のザンビアでした。今回と同じく自動車整備の職種で活動しました。

「父を送り出した母がすごい」と話すのは、息子の和也さん。当時、和也さんはまだ3歳、妹は1歳でした。そんな父の生き生きとした体験談を耳に育った和也さんは、大人になったら協力隊に行くものだと迷わず応募。父と同じアフリカ大陸のエチオピアで活動しました。昨秋には、妻のクロイさん(米国オレゴン州出身)とゲストハウスをオープン。“行動すれば結果はついてくる”というチャレンジ精神は、協力隊で培ったといいます。近所の人にとっては集いの場、外国人観光客にとっては日本の日常を体験できる場所にしていきたいと話してくれました。内山さん親子の今後の展開も楽しみです！



内山弘幸さん(2021年度1次隊/ウガンダ/自動車整備)



内山和也さん(2010年度2次隊/エチオピア/幼児教育)と妻のデルゼル・クロイさん

*MEBUKI HOUSE(ゲストハウス) 富山市神通本町2丁目1-3

Field Report

富山県出身のJICA海外協力隊員からの現地レポート

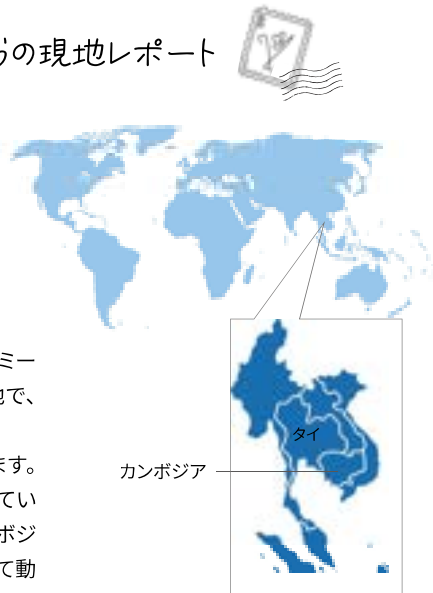


林 亮太朗(はやし りょうたろう)さん
派遣国 カンボジア
職種 サッカー
派遣期間 2022年10月～2024年10月

2022年10月より、カンボジアサッカー連盟・カンボット州ユースサッカーアカデミーにて活動をしています。任地のカンボット州は、海と山に囲まれた自然豊かな地で、その土地柄を活かして生産される「胡椒」と「塩」が名産品です。

配属先のアカデミーは、高校生・中学生・小学生・女子の4チームを有しています。現地のクメール人コーチと協力してアカデミーの運営、サッカーの指導に携わっています。また、自身の経験を活かし、ゴールキーパーの指導もおこなっています。カンボジアは育成年代のゴールキーパー指導者が少ないという現状があり、SNSを活用して動画を作成し共有したり、他州のユースサッカーアカデミーでゴールキーパーの選手の指導をさせていただいたり、カンボット州に限定せず、ゴールキーパーの知識を広めていこうと試行錯誤しています。

現地の方々とのコミュニケーションで、難しい点はまだまだあります。そこで挫折せずに、自分自身も学ばせていただきながら、活動を通してカンボット州、カンボジアサッカーの発展に少しでも寄与できれば幸いです。



カンボジア



今回のテーマ：各国の交通ルールについて

BRAZIL ブラジル出身 アリーネさん

ブラジルの高速道路では、速度カメラが多く、日中でもライトをつけないと違反になります。減速するためのスピードバンプが学校の周辺や町中に設置してあります。また、10歳以上かつ身長が145cm以上でない場合は車の助手席に座ることは禁止され、10歳未満はバイク同乗も禁止です。町の中心部には、zona azulと呼ばれる縦列駐車のための青い地帯があります。近くにある機械で駐車料金を払い、時間を証明する領収書を車の中に置きます。最大1〜2時間しか停められず、超過すると罰金になります。あとは、ガソリンスタンドでのセルフ給油は、禁止です。

KOREA 韓国出身 ヘミンさん

日本で運転しながら一番驚いたのはどこでもUターンが可能ということです。韓国では決められた車線でしかUターンができないため、普通に走っていた車が道路の途中で止まり、ウィンカーを出して反対側に曲がることは不可能です。韓国では実線になっているところは勝手に超えてはいけません。もし、入りたい店が中央線(実線)の向こう側にあるとしたらどこかUターンできるところまで行って戻らなければなりません。日本では道の途中で反対側に行っても問題ないと頭では理解していますが、未だに怖くてできない自分がいます。

RUSSIA ロシア出身 タチアナさん

まず、ロシアでは日本とは違って右側通行です。昼間もライトの点灯義務があります。また、ロシアの信号は日本の様に赤からすぐ緑(ちなみに日本のように青とは言いません。緑です。)には変わりません。順番は赤→黄色→緑です。日本に来て車関係で驚いたのは①路上駐車がダメなこと。②車の名義登録や名義変更のために馬鹿みたいにたくさん書類が必要なこと。(ロシアでは売買契約書、保険と手数料があればすぐできます。車庫証明も必要ないです。)③高速道路の最高速度が100km/hで、中には70〜80 km/h制限のところも多いこと。これは本当に高速ですか!?!一般道路とあまり変わりません。

INDIA インド出身 シリさん

インドは日本と同様に左側通行で、基本の交通ルールは他の国とあまり変わりませんが、交通事情の一番特徴的なところはルールではなく、市内で「赤信号で止まる」みたいな最も基本的なルール以外は誰も守ろうとしないところです。常にクラクションを鳴らしたり、他の車を追い越そうとしたり、車線からはみ出たりします。バイクは車と車のわずかな隙間に押し入り、時には歩道に乗って走ります。歩行者は道路上の優先順位において最後になり、車が歩行者のために止まってくれないのが普通です。インドで運転して生き残ることができれば、世界中どこでも運転できると言われるほど、カオスな状況です。

AMERICA アメリカ出身 アリスさん

アメリカにいた時はほとんど田舎で、交通ルールは意外と富山と変わりませんでした。もちろん、車は右車線で、赤信号でも右に曲がることのできるのが日本との違う点ですが、日本にあってアメリカにないものといえば、必ず車の後ろに貼ってある初心者か高齢者運転手を示すシールです。アメリカでは運転教習中のシールはあるかもしれませんが、シンボルでなく言葉で書かれていて、偏見の可能性があるので高齢者の運転は絶対に示しません。来日してしばらく経ってようやくシールが何の意味かを知って、とてもびっくりしました。

VIETNAM ベトナム出身 タオさん

ベトナムは日本とは逆で車は右側通行です。日本に来てから2年強経ちましたが、たまに道を右側通行してしまい焦ります。また、ベトナムでは自転車が歩道を走ることは禁止です。日本では自転車が普通に歩道を走っていて来日当初はびっくりしました。スピードも早いし、急に飛び出してくるので怖かったですね。とはいえベトナムでは歩行者が一番弱者で、大きなトラックのような車が一番の強者です。信号がない横断歩道でバイクや車が譲ってくれることは絶対にありえません。対して日本では歩行者が一番優先されているので、安心感があります。

CHINA 中国出身 スウさん

中国の道路交通法はほかの国と変わりがありませんが、一番の特徴はほぼ全ての交差点で、信号機の横に取り締まり用の監視カメラがあることです。信号無視などの違法行為はもちろんですが、車輪が車線に触れるだけで、たとえ車台ははみださなくても減点並びに罰金という処罰をされます。スマホのアプリに登録すれば、公安の交通係に出頭しなくても、スムーズに手続きをさせて、罰金まで支払えますので、とても便利です。ただ誰一人この便利なアプリを利用したくはないでしょうね。今の日本では、高齢者による交通事故が年々増加していて、やはりそれに応じた対策を打ち出さなくてはならないと思います。

CHINA 中国出身 ソンさん

日本と異なり、中国の自動車は右側通行で、運転席とハンドルは車体の左側にあり、自動車以外の車両や歩行者も右側通行です。また、日本では、自転車は専用駐車場にしか停めてはいけませんが、中国では、自転車は道路の両端に駐輪させることが可能です。そのため自転車専用の駐輪場は少ないです。また、歩行者用通路を通るときは、自転車に乗ることはできず、降りて押すことしかできません。日本では飲酒したら自転車に乗ることができませんが、中国ではそのような制限はありません。ただし、もちろん車の飲酒運転は同じく禁止です。



中国料理



紅焼翅膀 & 西红柿鶏蚕汤



中国出身 スウさん

手羽先の甘辛煮込みとトマトと卵のスープです。中国全土でよく食べられる一般的な家庭料理です。日本にもある材料で簡単に本場の味が再現できますよ。



材料(紅焼翅膀)

手羽先……………8本
生姜スライス……………1片
ネギのみじん切り……………適量
八角……………2個
サラダ油……………適量
氷砂糖……………5個
塩……………適量
しょうゆ……………大さじ2
料理酒……………大さじ2
水……………2カップ
鶏ガラスープの素……………小さじ1

材料(西红柿鶏蚕汤)

トマト……………大2個
卵……………2個
塩……………1〜1.5つまみ
お湯……………500ml

(下準備)

・手羽先に切れ目(斜めに3本)を入れておく。
・水2カップに鶏ガラスープの素を溶かしておく。

作り方(紅焼翅膀)〜手羽先の甘辛煮込み〜

- ①鍋にたっぷりの水を入れ、湯を沸かす。沸騰したら下準備しておいた手羽先を入れ、アクが出てきたら火を止める。ザルにあげ、アクを水で流し、キッチンペーパーで水気を切っておく。
- ②フライパンに油をしき、氷砂糖を入れる。色が変わって黒っぽくなったら、手羽先を入れ表面を均等に焼いていく。
- ③そこにネギ、生姜、八角を入れ、強火でさっと炒めたら、しょうゆ、酒、塩を入れる。
- ④手羽先がギリギリ浸かるくらいまで鶏ガラスープを入れる。
- ⑤煮たってきたら蓋をし、弱火にして時々ひっくり返しながら20〜30分煮る。

作り方(西红柿鶏蚕汤)〜トマトと卵のスープ〜

- ①トマトを角切りにし、フライパンでつぶしながら炒める。
- ②フライパンにお湯を入れ、塩で味を調える。
- ③味を見て、OKであれば強火でぐらぐらと沸騰させ、溶き卵を箸で伝わせながら、丸く円を描くように静かに入れる。



TICのイベント & 講座情報

ナマステインディア

インド出身のバーガワトゥラ・シリラリティア国際交流員が、インドの様々なことを英語で紹介します。

- 予定** 1/15・29(月)「北インドをもっと知ろう!」
2/5・26(月)「南インドをもっと知ろう!」
3/11(月)「インド旅行する前に」
- 時間** 18:30〜20:00 知っておくといいたいこと!
- 費用** 無料
- 申込** 不要。どなたでもお気軽にご参加ください。
- 場所** (公財)とやま国際センター ラウンジ



3/25(月)18:30〜20:30 インド映画上映会 「めぐり逢わせのお弁当」

Zoomオンラインセミナー “ニュースを追いかけて”

富山県に縁のある海外在住者を講師に迎え、各国の歴史や文化等について紹介します。

- 講師** 武井 徹 氏(共同通信社ワシントン支局次長)
- 日時** 2/3(土)10:00〜11:30 **費用** 無料
- 定員** 30名(申込多数の場合は抽選) **申込** Googleフォームにて受付

你好中国(ニーハオ・ジョングオ)

中国(上海)出身の国際交流員 孫明明(ソン・メイメイ)さんが、中国の文化や日常生活などについて中国語で紹介します。

- 予定** 1/16・23(火)「中国の建築」
2/20・27(火)「中国の飲食文化」
3/12・26(火)「中国人の日常生活」
- 時間** 18:30〜20:00
- 場所** (公財)とやま国際センター ラウンジ
- 申込** 不要。どなたでもお気軽にご参加ください。
- 費用** 無料



日本語支援者スキルアップ研修会 “共に創る対話力”

地域日本語支援者として活動されている方を対象にスキルアップのための研修会を開催します。

- 講師** 多田 孝志 氏(金沢学院大学教育学部長教授)
- 日時** 3/17(土)13:00〜16:00
- 場所** サンシップとやま福祉ホール
- 申込** Googleフォームにて受付
- 定員** 50名(先着順) **費用** 無料

